

八重山バスケットボール協会大会開催における 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

八重山バスケットボール協会

「八重山バスケットボール協会大会開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」（以下、「本ガイドライン」という。）は、新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県主催イベント等実施ガイドライン（0617 改正）や JBA バスケットボール活動再開に向けたガイドライン（第 1 版（2020 年 6 月 8 日作成））に基づき、八重山バスケットボール協会が大会を主催するうえでの基本方針を示したものである。

- ◆内容については、本市の特性に応じ作成している。
- ◆今後、沖縄県や上位団体の示すガイドラインに変更があった場合や状況に応じて随時見直しを行う。
- ◆大会参会者全員が対象である。
（本協会役員、選手・スタッフ、審判員、TO 員など全ての参加者）

【大会開催基準】

新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県主催イベント等実施ガイドラインの 5 開催可否判断の目安に基づき判断する。

【感染対策方針】

1. 事前の対応

会場において感染対策に向けた準備を行うと共に、参加チームに対して感染防止のため選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求める。

- (1) 以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ
 - ・体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 大会参加者全員のマスク着
- (3) 注意事項の遵守徹底
- (4) 事業終了後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告
- (5) 大会期間中は可能な限り行動を記録するため、健康チェックシートを提出させる（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立つ）

2. 会場における感染対策

- ・マスクの着用やソーシャルディスタンス確保の徹底、基本的な衛生エチケットの遵守。
- ・審判や TO 委員はマスク等の顔を覆うものを着用することが望ましい。
- ・手指消毒液など広く使用ができるよう準備し、参加者／選手、コーチ、審判は頻繁に手洗いを実施する。
- ・用具器具、その他の備品も頻繁に消毒すべきである。ただし、バスケットボールの消毒に関しては、ボールそのものの劣化を招く可能性があるとしてされており、詳しくは使用している各ボールメーカーの「お手入れ方法」に従う。
- ・審判は笛の代わりに、電子ホイッスルを使用しても良い。
- ・試合前後または試合中に、握手、ハイタッチ等の接触は避ける。
- ・開閉開式については、極力行わない。

(1) 会場等

- ・全てのドア及び窓を開け、3密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ・ドリンクを冷やすためのアイスボックス・イベントクーラーは使用しない。
- ・応援席がある場合は、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- ・喫煙所は設けない。

(2) 手洗い場所及びトイレ

- ・手洗い場にはポンプ式液体または泡石鹸を用意することが望ましい。

(3) 更衣室

- ・一度に入室する利用者の数を制限する。
- ・室内またはスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカー、テーブル、イス等）については消毒する。
- ・換気扇を常に回す。2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。
- ・利用時にはマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・シャワーは交代で使用し、密集を避ける。

(4) その他

- ・唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- ・タオルの共用はしないこと。
- ・飲食については、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。また、同じボトルで回し飲みはしないこと。
- ・飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外に捨てないこと。

(5) ゴミの廃棄方法

会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用すること。ゴミはビニール袋に入れ密閉して縛り、廃棄する。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手

を洗い、手指消毒すること。

※窓やドアの開放、参加者全員のマスク着用により熱中症を発症するリスクが高まるため、こまめな水分補給を促すとともに、ソーシャルディスタンスを確保したうえでの対策など、状況に応じた感染症対策を行うこと。

3. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会当日の参加者から取得した健康チェックシートを、保存期間（少なくとも3ヶ月）を明記した上で保存しておく。

また、参加者が大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに本協会へ連絡させるとともに、関係機関に報告し連携して対応すること。

【大会運営について】

1. 大会運営に当たって

- (1) 選手の意向を尊重して、大会の参加を強制しないこと。
- (2) 日頃の私生活において、常に最大限の感染予防に努めること。
- (3) 大会当日の朝、選手の健康状態を確認できる体制にすること。
- (4) 大会に向けた日頃の練習や練習試合においても本ガイドラインに沿った感染予防対策を徹底すること。

2. 三密を避ける取り組み

- (1) 大会会場（体育館）へ入場できる各チームの人数は選手・チーム関係者を含め1チーム20名以内とする。
- (2) 試合間で選手及びチーム関係者を入れ替える為、試合間を30分空ける。
・試合を終えた選手及びチーム関係者が体育館より全員退場を確認した後、消毒処理を行い、処理完了後に次の試合の選手及びチーム関係者を体育館へ入場させる。
- (3) 選手同士の接触を控える。
- (4) 大会会場内において、選手以外のマスク着用を義務付ける。

3. 検温及び健康観察について

- (1) 大会1週間前から別紙の健康チェックシートへ記録を行う。
- (2) 大会当日の朝、必ず検温及び健康観察を行う。
(当日の体温が平熱より1℃以上高い選手は大会参加不可)
 - ・熱は無いか
 - ・咳や鼻水などの風邪症状は無いか
 - ・強いだるさや頭痛は無いか

・息苦しさは無いか

※熱や風邪症状のある選手やチーム関係者の大会参加は認められない。

- (3) 検温後は健康チェックシートへ記入する。
- (4) 健康チェックシートはチーム代表者が取りまとめ、会場入りの際に本部へ提出する。
- (5) 大会会場入り後、発熱や体調不良になった選手は直ちに帰宅させる。
- (6) 大会終了後においても2週間、別紙の体調管理チェックシートへ記録する。

4. 消毒について

- (1) 体育館へ入館、退館時には手の消毒を行う。
- (2) 消毒液等は各チームで準備する。

5. マスク等について

- (1) 選手や大会関係者はマスク等を会場入りから帰宅まで全員着用する。
- (2) 試合前の練習及び試合中においてはマスク等を外す。
- (3) 試合に出ない選手及びベンチ入りするチーム関係者はマスク等を着用する。

6. 試合中の注意事項

- (1) 試合前、終了後の握手は行わない。
- (2) 試合中、ハイタッチや抱擁などは行わない。
- (3) ベンチのメンバーはソーシャルディスタンスを意識して座る。
- (4) マスク着用をしていない選手が大きな声を出しての指示やアピール等を行わない。

7. その他

- (1) 常時窓を開けて換気を行う。雨天時はハーフタイム及び試合間におこなう。
- (2) 控え場所やミーティングの際には三密にならないように行う。
- (3) 大会期間中に県及び地区全体に感染が広がる場合は、大会を中止とする。